

2 望ましい食生活の実現に向けた食育の推進

食育推進計画の策定は、管内で42市町村（20年12月末現在）

食育基本法の施行（平成17年7月）及び国の食育推進基本計画の策定（18年3月）に基づき、都道府県、市町村において食育推進会議の設置、食育推進計画の策定が進められている。

東北においては、管内各県が食育推進計画を策定し、市町村においては、青森県では11市町、岩手県では9市町村、宮城県では11市町、山形県では7市町、福島県では4町村が食育推進計画を策定したところである（表I-2）。

表I-2

管内市町村の食育推進計画の策定状況（平成20年12月末日現在）

青森県	鶴田町、青森市、むつ市、階上町、深浦町、八戸市、板柳町、十和田市、おいらせ町、つがる市、東北町
岩手県	一関市、紫波町、矢巾町、一戸町、金ヶ崎町、滝沢村、八幡平市、山田町、盛岡市
宮城県	仙台市、大崎市、名取市、柴田町、塩竈市、多賀城市、松島町、美里町、気仙沼市、登米市、栗原市
山形県	酒田市、山形市、真室川町、尾花沢市、河北町、鶴岡市、山辺町
福島県	只見町、檜枝岐村、会津坂下町、大玉村

「食事バランスガイド」の普及

6月の「食育月間」では、消費者展示コーナーにおいて、健全な食生活の実現、バランスの良い食生活の実践に活かしてもらうため、「食事バランスガイド」の活用方法等をパネル、フードサンプル等を用いて紹介した。

また、日頃食べている食事のバランスを理解しバランスの良い食生活の実践に活かしてもらうため、仙台合同庁舎内食堂のメニューに「食事バランスガイド」を活用した「サービング(SV)」を実施した。

食育推進協議会の開催

東北農政局では、地域における食育を推進するため、定期的に東北地域食育推進協議会を開催している。20年度においては、20年8月及び21年2月に開催し、食育の推進方策の協議等を行った。

このほか、市町村食育推進計画の策定等に向けて、管内の地方農政事務所では食育推進に関する懇談会等を開催した。

シンポジウム等の開催による食育支援活動の実施

東北農政局では、20年6月に、「食育シンポジウム」を仙台市を含め東北管内6か所で開催し、消費者の「食」に対する理解を深め、食育を推進するため、食料自給率向上に向けた国産農産物の利用拡大等について意見交換を行った。

また、20年11月には、自然の恩恵や農業への理解を深める「教育ファームに関する意見交換会」を仙台市で開催した。

そのほか、管内の地方農政事務所において、シンポジウム等を開催した。

＜コラム＞

「食育シンポジウム～地場産活用で食育推進！～」

【基調講演】

演題：「喜多方市における食育の取組」

福島県喜多方市教育委員会 学校教育課 課長補佐 渡部 裕 氏

【パネルディスカッション】

テーマ：「地場産物に着目した食育の推進」

コーディネーター 平本 福子 氏（宮城学院女子大学 食品栄養学科 教授）

パネリスト 大場 優 氏（東北総合サービス株式会社ピポット事業本部長）

田村 孝夫 氏（宮城教育大学生生活協同組合 専務理事）

西村 栄一 氏（いしのまき農業協同組合青年部 副委員長）

渡部 裕 氏（喜多方市教育委員会 学校教育課 課長補佐）

日 時：平成20年6月17日（火）13:30～16:00

場 所：宮城県庁2階講堂

教育ファームに関する意見交換会「教育ファームを推進していくためには」

【取組紹介】

1 加美よつば農業協同組合（加美町下狼塚集落営農組合） 加藤 恒治氏

2 酒田市立浜田小学校 栄養教諭 真嶋 敦子氏

3 新ふくしま農業協同組合 総合企画室課長 斎藤 政治氏

【情報提供】

「東北管内における教育ファームの現状と課題」

【意見交換】

「教育ファームを推進していくためには」

コーディネーター 佐藤 幸也氏（宮城学院女子大学 児童教育学科 教授）

取組事例紹介者 加藤 恒治

真嶋 敦子

斎藤 政治

大山 貴司氏（農林水産省消費・安全局消費者情報官補佐）

日 時：20年11月26日（水）13:30～16:30

場 所：斎藤報恩会館地階大会議室

平成20年度「食育」活動優良事例表彰

東北農政局では、各地域で取り組まれている食育活動に対し、その取組を一層推進するために表彰を行っている。

20年度は、東北農政局長賞を3団体に、東北農政局長食育奨励賞を5団体に授与した(表I-3)。

表I-3

平成20年度「食育」活動優良事例表彰

東北農政局長賞

食生活向上分野	大槌町立小槌小学校(岩手県上閉伊郡大槌町)
ひとり立ちクッキング生活技術の向上を目指して 子どもちゃれんじ!	
「食の自立」を教育課題として食育に取り組み、「生活技術を身につける」ことを目的に、毎月食育の日(19日)に教師と子どもで話し合い、炊飯やみそ汁作り、皮剥きなど、その月のちゃれんじ項目として設定し、月末まで各家庭と協力して取り組みを行っている。 子どもの自発的な行動を促し、家庭への波及効果も大きく、身近な内容を着実にレベルアップさせ、親子参加型の食育授業を実施するとともに、地域の方を講師に招き料理教室や農業体験を行うなど、地域との連携を図っている。	
教育ファーム分野	J A 栗っこあぐりスクール(宮城県栗原市)
J A 栗っこあぐりスクール 田植えや稲刈り、野菜・果物の収穫などのほか、親子での料理教室や青果市場・魚市場の見学など流通についても学ぶなど、様々な食・農カリキュラムで実施。昼食時にはマイ箸、マイ皿、マイ茶碗を持参させるなど、エコにも関心を持たせている。 あぐりスクールPTAを組織し、J A 職員と協力して子供たちの指導に当たるほか、大人向けの食育の実践などにも取り組んでいる。 また、地震以降も子供たちがスクールに結集し、被災者を勇気づけ、共同で支え合う大切さを学んでいる。	
地場産活用分野	山の楽校運営協議会(青森県八戸市)
人間回復～取り戻してほしい感謝の心～ 「昔ながら、田舎ならではの」をモットーに、「昔ながらの調理方法を学ぶ楽校」と、食と農を一つとした「1年を通じた食を楽しむ楽校」を、年間約60の講座(楽校)で実施している。地域の高齢者を講師に、伝統食や行事食の調理方法や食べ方を学ぶとともに自然農法で作物を育てている。 また、月1度のペースで楽校内で作った野菜や味噌を南郷区内の学校給食へ提供するなど、地域に根ざした文化の継承・地産地消の取組についても平成17年度からの継続的に行っている。	

東北農政局長食育奨励賞

食生活向上分野	株式会社ヨークベニマル(福島県郡山市)
スーパーマーケットからの食育 ～ヨークベニマルの食育活動～ 地域に根ざし、福島県産の農産物を徹底活用。小学生を招きスーパーを教室にした「スーパーマーケットツアー」や、農家と連携し農作業体験から流通まで学んで貰う食農体験、食事バランスガイドを活用した栄養相談や健康チェックなど様々な取組を行っている。 国内・域内食料自給率向上や農業を護るための消費者教育を行い、流通・小売サイドが社会的に果たすべき責任のあり方を示し、地域に大きな効果を及ぼしている取組である。	
教育ファーム分野	花巻農業協同組合(岩手県花巻市)
ちゃぐりんスクール 地域貢献、地域の食・農への責任から、子供たちに「いのち、農業、食べものの大切さ」を伝えることを目的に、平成15年度からJ A を上げて取り組んでいる。 入学から卒業まで、農作業体験だけでなく収穫したものを調理したりと、年間を通して様々なカリキュラムで実施し、平成15年度から取り組んでいること、全国においても先進的であること、全国のJ A への波及効果や今後の発展性、農業生産者・団体が国民から期待されている活動を地域で展開している。	
教育ファーム分野	東松島市立赤井小学校(宮城県東松島市)
田んぼの学校 みんなの田んぼとして「みやこがね」を田植えから収穫までの年間の一連の作業を体験学習している。この「田んぼの学校」は、保護者や地域を巻き込んだ取組であり、平成15年度から継続して行っているこの取組は、県内の小学校で行われている農作業体験のモデル的存在になっている。 農業が元気な地域で、直売所なども非常に多く、ともに相乗効果を生んでいる。	
地場産活用分野	特定非営利活動法人生き粋あさむし(青森県青森市)
耕して、育てて、おいしくいただく! 「食と農をつなぐ、いきいき農園と浅めし食堂の食育活動」 「いきいき農園」で子供たちに農業の体験学習を行うとともに、収穫した野菜を、経営する「浅めし食堂」へ供給し、旬の食材を使った健康的な地域の食を提供している。地域への食と健康の発信基地であり、住民の憩いの場となっている。また、孤独になりがちな高齢者への食事提供や食育活動も行い、近年食堂で提供するための農場を作り、雇用を生み出している。食材には、陸奥湾の海産物や青森の林産物も取り入れている。	
地場産活用分野	株式会社J A シンセラ(岩手県盛岡市)
株式会社J A シンセラ 矢巾町長とJ A 組合長のトップ会談で平成15年9月覚書を締結し、16年4月より町内産最優先の食材全量供給を開始している。 生産供給組合(生産者)がJ A シンセラへ食材を搬入し、加工が必要なものはカット工場加工し給食センターへ納入している。J A の強みを活用し、生産供給組合でまかないきれないものは直売所や青果業者などを活用。この取組が農家においても所得の向上、安定に繋がっている。 全国初とも言える地場産学校給食システムをビジネス化し、生産サイド・流通サイド、子供たちを含む学校関係者からの評価は極めて高い取組になっている。	